

成果と課題						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	<p>教材と関連する本を紹介したり読み聞かせをしたりしたことで、興味を広げることができた。</p> <p>文字を正しく丁寧に書ける児童が増えたが、文章の中で漢字が使えなかったり、字形を整えて書いたりすることが難しい児童もいる。</p> <p>すすんで、話したり聞いたりする児童が多くなった。話したり文章を書いたりするときに、引き続き、語と語や文と文の続き方を指導していく必要がある。</p>	<p>生活科や他の教科との関連を図りながら、児童が興味関心をもてる題材を選ぶことで意欲的に書く児童が増えた。また、構成メモを効率的に活用したことで、自分の意見や考えを表現することができるようになってきた。しかし、書いた文章を読み返して、よりよい文章に直すことに対しては、難しい児童が多い。</p> <p>音読など、児童が日常生活の中で様々な言葉に触れる機会を多く確保することで、言葉の面白さを感じることができた。</p>	<p>国語辞典を日常的に使用し言葉に親しむことで語彙が増えた。また、漢字やローマ字の学習に対して主体的に取り組む姿が見られた。</p> <p>相手意識をもって話をするこの大切さを繰り返し指導し手本を見せることで挨拶や返事の声は大きくなった。</p> <p>文章を書くことに対しての抵抗感はなくなったが、主語と述語が整った文章を書くことはまだまだ難しい児童がいる。相手に伝わる文章表現について指導を続ける必要がある。</p>	<p>工夫をした話し方と工夫していない話し方を比べさせたことで、目的を明確にしてから話すことができるようになった。</p> <p>国語辞典を用いて語彙集めをしたことで、言葉の性質の理解が深まった。詩や短文づくりをしたことで様々な表現をすすんで活用していた。</p> <p>日頃のノート指導を繰り返し行ったことで、既習の漢字を活用しようとする児童が増えたが、十分ではないため、継続した指導の必要がある。</p>	<p>児童の興味・関心の中から学習課題を設定することで、自分なりの考えをもたせ、主体的に学習に取り組みせることができた。</p> <p>報告文や意見文、推薦文を書いて発表することで、資料から必要な情報を取り出した、引用したりして、自分の考えを表現できるようになってきた。より効果的に資料を活用し、自信をもって発表できるように、さらに経験を積ませたい。</p>	<p>計画的に新出漢字に取り組んでことで習熟を図れた。物語文においては自分たちで課題を設定し、課題を解決していくことで、主体的に学習をしていた。</p> <p>ICTを活用した効果的な交流方法は、もっと効果的場面と方法について、教師自身の教材研究が必要である。</p> <p>聞くことにおいては、大切なことをメモすることに課題がある。</p>
社会			<p>映像、イラスト、写真から気が付いたことや、疑問に思ったことをノートに書き出す活動を多く行い慣れてきた。</p> <p>ICT機器を活用し、学習したことを写真やグラフなどを用いてまとめることができた。</p> <p>教科書のグラフや表をそのままノートに写して終わる児童が多かったため、資料を通して「なぜ、どうして」の視点を常にもたせ、自分の考えや予想を書くことができるようにしたい。</p>	<p>○都道府県の特徴について、地図帳やインターネット、クイズに解答するなどをしたことで、理解が深まった。</p> <p>○学習のまとめの祭、例を示したことで計画を立てながら円滑に進めることができていた。</p> <p>○資料を読み取る活動を増やしたことで、資料に関連付けて考えることができるようになった。</p>	<p>導入で学習のねらいを捉えさせたり、参考サイトを事前に用意したりしておくことで、タブレットPCを活用して課題に沿った情報収集をする力を高めることができた。しかし、調べた情報を精選し、自分の考えを交えて表現する力には個人差が大きい。目的や資料に応じたまとめ方を身に付けることが課題である。</p>	<p>ICT機器を活用し、写真やグラフといった資料を提示し、「資料からわかること」を中心に考える学習活動を進めることができた。また特に歴史の単元で児童の思考を深めるのに役立った。一方で、児童のもっている知識により差が大きく、自分の考えや疑問をノートにまとめ、発表する機会を十分に持たせられなかった部分が課題である。</p>
算数	<p>児童間で伝え合い、皆の前で説明をする活動を多く取り入れることで、算数の学習を積極的に楽しもうとする児童が増えた。</p> <p>宿題に算数のプリントを出すようにし、習熟をはかることができた。</p> <p>国語の学習と関連付けて、書く活動を日常的に取り入れたことで、問題場面をイメージして問題文の内容を理解できる児童が増えてきた。</p>	<p>学習に対し、意欲的に取り組む児童が増えてきたが、学力差が少しずつ開いてきたため、定着を全体に図ることはできなかった。</p> <p>量感を身に付けるための活動を多くと例入れたことで、生活に結びつけて算数の学習に取り組むことができた。</p>	<p>ドリルやプリントなどを効果的利用したり、児童の実態に合わせて授業を工夫したりしていったことで、基礎的な力はだいぶ身に付いたといえる。今後は、さらに体験的な活動や学び合う活動を増やし、思考力・表現力を高めさせていくことが重要である。</p>	<p>個々の児童の学力差が大きく、全体としての基礎基本の定着はまだだである。そうした中でも、主体的に学ぶ児童の姿は多く見られるようになってきている。今後もコースに応じて指導方法の改善を目指し、すべての児童の学力向上を目指していくことが重要である。</p>	<p>学年全体の学力は高く、チャレンジコースの人数の割合が多い。一方で、基礎基本の定着をしっかりと進めていく必要もある。コースごとに学習進度や指導内容を工夫し、より児童の実態やニーズに合わせた授業展開をすることが必要である。</p>	<p>6年間の基礎基本はおおむね定着しているが、今後は、思考・判断力や表現力をさらに身に付けさせていくような指導に重点を置きたい。全体的に学力が高いため、発展問題等の教材開発を行って行く必要がある。</p>
理科			<ul style="list-style-type: none"> <li>活動や経験をもとに問題作りを行い、目的を明確にして実験や観察に取り組むことに慣れてきた。</li> <li>実験結果を知識に合わせようとする傾向があった。実験や観察の結果をもとにした考察を通して問題を解決する学びの流れの定着をさらにすすめる。自分の考えを書く時に言葉が足りないことがあった。例文等を示して、分かりやすい表現ができるようにしたい。</li> </ul>	<p>○インターネット教材や資料を活用してイメージをもって実験したことで扱い方について理解を深めることができた。</p> <p>○問題、予想、結果、考察などの流れを確認したことで結論を導き出せるようになった。</p>	<p>問題提示の工夫を意識し、身近な事象と関連付けながら見通しをもたせることで、意欲的に仮説を立てたり、考察したりすることができた。また、課題解決のために、行う実験に対して、試行錯誤しながら取り組むことができた。</p> <p>交流の時間が不十分だったため、多様な意見に触れることが少なく、考えを広げたり、深めたりすることが難しかった。</p>	<p>実験や観察の前に児童一人一人に学習課題を意識させ、「何について調べているのか」を明確にすることができた。また、実験道具の説明をする際は、ICT機器を有効に活用し、安全に正しく実験用具を使用することができた。</p> <p>年間の学習計画の中で、計画的に実験や観察を設定することが難しかったため、結果から分かることと分からないところを区別して、考察する力を高めるところに課題が残った。</p>
生活	<p>観察カードや振り返りを書く時に、書く視点を示したり、教師の問いかけに答えたりすることで、絵や文で表現することが苦手な児童も主体的に学習に取り組むことができた。観察や探検、製作活動など、体験的な活動を多く取り入れたことで、自然や人との関わりに関心もち、楽しみながら活動することができた。</p>	<p>国語科の観察単元と連携し、児童の目線から、経時的な変化の見方などの観察の視点を明確にさせることで、観察の記述を適切に統一することができた。</p> <p>人に会う体験活動が困難なかわりに資料を見たりや個人で街を歩いてきたりするなどの工夫をして、楽しく活動することができた。</p>				

音 楽	<p>楽しみながら音楽活動に取り組むことができた。</p> <p>児童同士で演奏を聴き合うことで、音楽表現の楽しさを感じたり、「強弱」や「速さ」「リズム」等の音楽の要素に気付く自分でも表現しようとしていたりする児童が増えた。</p> <p>器楽演奏に関しては、技能面に差があるので、個別に指導する必要がある。</p>	<p>鍵盤ハーモニカの演奏など児童が自分の課題と目当てをもたせ、個別に指導する機会を作り段階的に技能を習得させ上達を図った。</p> <p>歌うことの制限が多い中、ボディパーカッションなどを併用し、リズムや音の強弱に気を付けながら表現する指導を行った。制限が解除されたら、思いっきり表現できるようにさせていきたい。</p>	<p>基礎基本を繰り返して指導するとともに、音楽を聴いた際に知覚・感受した内容を積極的に発信し、表現の工夫についての考えを広げることができた。自分の思いを伝えるための語彙も増えてきている。コロナ禍のため、合唱やリコーダーなどの実技の演習を多く実施することができなかった。次年度は実技演習の場を多く設定していきたい。</p>	<p>選曲を工夫し、めあてを明確にしたり自分たちの演奏を客観的に聴いたりした。活動後に振り返りをし、よりよい表現をするためにどうしたら良いかを考える活動を通して、学年全体としての表現の力が伸びてきた。コロナ禍のため演習の機会を多く設けられなかったこともあり、技能の面でやや個人差があるので、次年度に力を入れていきたい。</p>	<p>めあてを明確にし、活動後に課題の達成度を振り返ることで、学習内容の定着を図ることができた。コロナ禍のため、合唱等の実技の演習を多く実施することができなかったが、楽曲に対する分析や知覚・感受した内容をどのように表現するかを検討は例年よりじっくり取り組めたので、次年度はその経験を生かせる実技演習の場を多く設定していきたい。</p>	<p>学習のめあてを明確にし、的確な指示を心掛けることにより、指導内容の能力を高めることができた。特に行事に関わる学習活動を通して、全体の見通しをもったり、表現の力を伸ばしたりする等ができた。音楽づくりではリコーダー等が使えない状況であったが、タブレットパソコンを活用しての創作を行うことができた。</p>
図画工作	<p>学習予定を学年便り等で伝えることで、学習内容の認識を深め、各自が取り組みたい内容を具体的にすることができた。作品の鑑賞を通して、友達の工夫の仕方や自分との見方の違いを知り、その後の製作に生かすことができた。</p> <p>一方で、自分のしたいこと、興味をもったことに気持ちが引っ張られてめあてから離れて製作してしまうことがある。授業のめあてを明確に提示していく必要がある。</p>	<p>材料や用具に十分に慣れさせ、使う練習をするような時間もと、一人一人に応じた制作活動ができるようにしたことで、意欲的に取り組んだ。また、作品の鑑賞をすることで、友達の工夫や良さ、自分との違いを感じ、他者を認め感性を高めることができた。</p> <p>自分の作品への思いや、友達の作品のよさ、美しさを伝え合う鑑賞の活動の際、言語表現が十分でない児童がいる。どういった点に気を付けて見ると良いのか具体的な指示や助言を工夫していく必要がある。</p>	<p>制作途中の鑑賞タイム、ICTの活用、児童一人一人への声かけなどにより、多くの児童が発想を広げ、意欲的に製作に取り組んだ。段階を追って、一つの道具の用法を理解させ、安全指導を徹底することにより技能が向上した。題材の順序・作業動線等を工夫することで、コロナ禍でもディスタンスを取った活動ができた。基本的な技能や制作のスピードに、かなり個人差があることが今後の課題である。</p>	<p>題材を工夫したり、ICTを活用したりすることにより、多くの児童が意欲的に創作に取り組み、その中で基本的な技能も身に付けることができた。活動の導線や手順を工夫することで安全を確保することができ、またコロナ禍に対応したディスタンスを取った活動ができた。基本的な技能の個人差がかなりあるので、支援を要する児童に対する指導・助言の仕方を工夫していく必要がある。</p>	<p>題材、テーマの工夫や適切な助言、手順を示すことにより、多くの児童が意欲的に創作活動に取り組み、個々の造形的表現力も高まった。コロナ禍においても導線や題材の工夫で密を避けることができた。また各学習時間の最後に振り返りを行うことにより、次時の活動への見通しをもって製作に取り組みさせることができた。今後も児童の実態に即した題材を工夫し、互いの良さを認め合いながら、アイディアを共有し意欲的に創作に取り組みさせたい。</p>	<p>題材、テーマを工夫したり、表現方法に幅を持たせたりすることにより、児童一人一人が意欲的に創作活動に取り組むことができた。また、長時間の単元では学習カードを使って振り返りや鑑賞を行うことにより、活動全体の見直しを持って制作に取り組みさせることができた。素材や題材を工夫することで、コロナ禍でも密を避けて制作活動に取り組めた。今後も、個々の個性や創造力をいかし、互いの良さを認め合いながら意欲的に創作に取り組みさせていきたい。</p>
家 庭					<p>年間指導計画を弾力的に入れ替え、家庭と連携しながら学習を進めることができた。また、ICTを活用し交流することで、児童の興味・関心を高めたり、自分の考えや価値観を広げたり、深めたりすることができた。振り返りカードの活用や、資料・作業内容等の視覚化では、学習の見通しをもって主体的に学ぶ児童の姿が多く見られた。</p> <p>調理実習については、次年度以降も家庭での学習と併せて行うことも視野に入れ、慎重に学習を進める。</p>	<p>自分の力量に合わせて、作るものや個人の目標を決めたり、休み時間などの補教でそれぞれの個に応じた指導をしたりすることで、苦手な児童にも作ることの楽しさや完成したときの達成感などを味わわせることができた。</p> <p>食分野については、調理実習ができないことでモチベーションを保つことが難しかったが、家庭学習ができるように計画的に課題設定ができた。家庭実践が継続されるよう家庭との連携を深める。</p>
体 育	<p>身体を動かすことの楽しさを友達と関わることを通して味わうことができた。</p> <p>動き方だけでなく、それまでの努力過程を称賛することで意欲的に活動できる児童が増えた。</p> <p>リズムに合わせて身体を動かすことに意欲的であり、ゲームなど遊びの要素を取り入れた活動が好まれた。</p> <p>基本的な集団行動の動きを身に付けている。また、学習カードを活用することで、児童の思考がよく理解できた。</p>	<p>コロナ禍においても導線や題材の工夫で密を避けながら活動できた。</p> <p>学習カードなどを活用し、運動の工夫について表現したり、友達の良いところを見たりすることで意欲的に活動した。</p> <p>課題別に繰り返し練習することができるよう、1時間の授業構成を工夫したことで個に応じた活動ができた。</p> <p>運動の仕方について、思考したり、工夫したり、表現したりする活動が十分ではなく課題である。</p>	<p>ICTを活用し、自分や友達との運動する姿を繰り返し観察したり、比較したりすることで、友達の良さに気付いたり、自分の運動課題が分かって、ふさわしい運動の場を選んだりする力が身に付いてきた。また、それらを通じて上達を感じ、運動意欲が高まった。</p> <p>児童同士の交流に制限があり、十分な伝え合い活動ができなかった。運動のポイントや言葉かけの例を示して、関わる際の手がかりとしていきたい。</p>	<p>モジュール学習を取り入れ、苦手克服の時間を設けたが、全員が苦手克服をすることができなかった。タブレット活用した交流などにより、自分の動きを客観的に見ることができポイントを意識して運動することができるようになった。</p> <p>タブレットやホワイトボード、作戦カードなどの教具を使って、身体接触がないように配慮して指導することで、工夫して運動することができた。</p>	<p>活動に制限がある中でも、ルールや動きを工夫して、楽しみながら運動に取り組むことができた。また、タブレットPCを活用して、自分の動きを客観的に見ること、ポイントを意識して練習に取り組み、技能を高める児童が増えた。今後もさらに活用方法を検討し、ICTを生かせる場面を増やす。</p>	<p>自分に合っためあてを立てることができるようになった児童が増えた。動きをオノマトベにすることで基本的な動きを身に付けることができた。また児童がオノマトベを考えるなどの様子も見られ、児童同士の学び合いが深まった。</p> <p>ICT機器を活用したことで、客観的に動きを見ることで、技能の向上は図れた。</p> <p>補助運動を多く取り入れ、技能の向上を図ることができ、怪我の防止にもつながった。</p>
外国語					<p>簡単な内容を中心に、一人一人が発表できる機会を設けることで、自分の考えを表現することに自信が付いた。また、英語に苦手意識のある児童への個別指導を通して、積極的にコミュニケーションをとる児童が増えた。</p> <p>学び合いの時間や交流の時間がなかなか確保できず、技能の向上や技能の個人差が縮まらなかった。</p>	<p>学習した表現を使い、一人一人が発表する機会を多く設け、相手に伝えるという意識をもたせることができた。英語が堪能な児童にはなるべく早い段階で発表をってもらうことにより、それを手本としてどの児童も表現することの楽しさを味わえるような指導を行うことができた。</p>

